

JAあいら伊豆 平成26年度上半期 経営状況のご案内

1. JAの地域貢献

当JAは、熱海市・伊東市を事業区域として、農業者を中心に地域の皆様が組合員となって、相互扶助（お互いに助け合い、発展していくこと）を共通の理念として運営される協同組織であり、農業・地域の活性化に資する地域金融機関を目指しています。当JAの資金は、その大半が組合員や地域の皆様よりお預かりした大切な財産である「貯金」を源泉として、資金を必要とする組合員や地域の皆様にご利用をいただく事を通じて、暮らしや事業のお手伝いをさせていただいております。

◆農業振興・地域貢献活動

地域農業の維持発展を目指し、新規就農者や担い手の育成支援のために、農作物栽培講座や実践的に農業を学べるトレーニングほ場での農作物栽培指導などの取り組みを行っています。

ファーマーズマーケット「いで湯っこ市場」では、地元の新鮮で安全な農産物を提供し、皆様に安心してご利用いただくことにより、地産地消の推進に努めています。

また、地域の皆様との交流を図り、より身近で地域に根ざした役立つ組織を目指すため、各支店では、農業祭や品評会などのイベントの開催、夏祭りやあいさつ運動などの地域行事への参加をはじめ、地域清掃活動の実施や、店頭における夏野菜を使ったグリーンカーテン、さらには、地域の幼稚園や小学校へ出張し子どもたちと協同してミニトマトなどの鉢植え栽培など、多彩な「1支店1協同活動」を行っています。さらに、食農教育として、小学生の親子を対象とした「さつまいも植付け体験」や、「ブルーベリー収穫・ジャム作り体験」を行い、「農の楽しさ」や「農の豊かさ」を次世代に伝える活動を継続的に行っています。

今後も広報誌、ホームページなどを通じた情報発信を心がけ、地域の皆様に信頼され貢献できる協同組織を目指してまいります。

2. 金融再生法開示債権(単体)

当JAの金融再生法の開示区分に基づく債権額は次のとおりです。

今後も厳格な自己査定を実施し、資産の健全化に努めていきます。

(単位：百万円)

債権区分	平成26年3月末	平成26年9月末	増減
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	948	984	36
危険債権	261	215	△ 46
要管理債権	—	109	109
合計	1,209	1,309	99

注：1. 平成26年9月末の計数は、平成26年8月末を基準日として行った自己査定結果（債務者区分及び債権額）を基準としています。

2. 各債権の定義は次のとおりです。

- ①「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。信用事業に係る総与信（貸出金、信用未収利息、信用仮払金、債務保証見返、貸付有価証券、外国為替（以下、同様））のうち、自己査定で破綻先及び実質破綻先に区分されたものが該当します。
- ②「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性が高い債権です。信用事業に係る総与信のうち、自己査定で破綻懸念先に区分されたものが該当します。
- ③「要管理債権」とは、3月以上延滞債権（元金又は利息の支払いが、約定支払日の翌日を起算日として3月以上延滞している貸出債権）及び貸出条件緩和債権（経済的困難に陥った債務者の再建又は支援を図り、当該債権の回収を促進すること等を目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定等を行った貸出債権）です。

3. 単体自己資本比率(国内基準適用)

当JAの自己資本比率は平成26年9月末で16.41%程度と国内基準4%を大幅に上回る水準を維持しています。

(単位：百万円)

	平成26年3月末	平成26年9月末（見込み）
自己資本額	6,243	6,325
リスク・アセット等	38,234	38,539
自己資本比率	16.32%	16.41%

注 1. 自己資本比率とは、貸出金等の総資産に占める自己資本の割合を示すもので、経営の安全性、健全性等を表す代表的な指標です。国内のみで営業を行う金融機関には4%以上が求められています。

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{自己資本の額（出資金や利益準備金、積立金、剰余金などの合計額）} \times 100}{\text{リスク・アセット（当JAの所有する預金や貸出金、有価証券その他の資産にそれぞれ定められた一定のリスク・ウエイトを掛けて計算した総額）} + \text{オペレーショナルリスク相当額}}$$

2. 平成26年9月末の自己資本比率の算出にあたり、仮決算の当期剰余金は法人税等見込み額控除前の数値を使用しています。信用リスク・アセットの一部は、平成26年8月末を基準として行った資産自己査定結果に基づいて計算しています。また、オペレーショナル・リスク相当額は、直近決算における数値を使用しています。

4. 主要勘定の状況

(単位：百万円)

	平成25年9月末	平成26年3月末	平成26年9月末
貯金	109,450	111,370	112,187
貸出金	35,806	34,914	34,233
預金	64,274	67,652	71,023
有価証券	9,935	9,597	7,917

注 有価証券における平成25年9月末および平成26年9月末の残高は帳簿価格を、平成26年3月末の残高は貸借対照表計上額を表示しています。

5. 有価証券等の時価情報

(単位：百万円)

	平成26年3月末			平成26年9月末		
	帳簿価額	時価	含み損益	帳簿価額	時価	含み損益
満期保有目的の債券	—	—	—	—	—	—

(単位：百万円)

	平成26年3月末			平成26年9月末		
	取得原価	時価	評価差額	取得原価	時価	評価差額
その他有価証券	9,212	9,597	384	7,917	8,346	429
株式	—	—	—	—	—	—
債券	9,212	9,597	384	7,917	8,346	429
その他	—	—	—	—	—	—

注 1. 満期保有目的の債券、その他有価証券で時価のあるものを表示しています。

2. 平成26年9月末の含み損益・評価差額は、平成26年9月末時点の帳簿価額・取得原価と時価との差額を表示しております。